経会・法人協が府外視察

平田観光農園・イオンアグリ

大阪府農業経営者会議（中筋秀樹会長）と大阪府農業法人協会（藤田善敬会長）は11月5日から6日にかけて、農業経営改善視察研修を実施。広島県三次市の平田観光農園と兵庫県三木市のイオンアグリ創造（株）三木里脇農場をそれぞれ視察した。

平田観光農園では、加藤専務取締役が取り組みを説明。約15㌶の果物観光農園で、年間を通じて農産物が絶えないようリンゴ、ブドウ、イチゴなど10品目を超える品目を生産している。

「果物を通して農業の面白さを伝える」ことを目的に栽培事業だけでなく、加工事業・飲食事業・体験事業と4事業に取り組み、長野県に工場を置くドライフルーツ加工や農園併設のレストラン、更には食育推進の視点から子どものみが収穫し学べる「くだもんがっこう」という安価なコースが好評を博すなど多様な取り組みを展開している。

イオンアグリ創造では、新井生産本部西日本直営事業部長と、山崎農場長が取り組みを説明。

イオングループの子会社の一つで、生産から販売まで一つのサプライチェーンを作れる小売ならではの強みを持つことや、若者が農業を「一つの職業として選んでもらえるような産業」にしていきたいという理念のもと設立された。現在は全国に21の農場を抱え、安全安心の視点からGLOBALG.A.Pの基準により生産。近隣の店舗には、今朝どりで直送できるのがグループの強みとなっている。

三木農場は開園後11年目を迎え、8㌶で生産。生産面積の過半で青ネギの周年生産を行い、店舗から出てしまう食品残さを用いたリサイクルループ（地域循環モデル）を実施している。

（沼田）

平田観光農園では10を超える品目の観光農園を展開

なにわ農業賞受賞者紹介79

農業を通じて地域貢献にも取り組む

貝塚市　北野　彰一さん

平成29年に「なにわ農業賞」を受賞した北野彰一さん（65）は現在、奥さんと従業員5人で、地域特産の水耕ミツバ14㌃と水ナス13㌃を中心に、シュンギクや水稲80㌃を経営している。

北野さんは、もともと農業を継ぐつもりであったが、大学農学部卒業後は企業に就職してサラリーマン生活を経験し、30歳で退職して親元就農した。

当時、父親の熊太郎さんは60歳ほどであったが、息子の就農を機に経営全般を彰一さんに移譲して、以後、息子の手伝い等に専念。これには彰一さんも少なからず驚き、責任の重さと親の想いを実感したそうだ。

それまでは、主に水ナスと米、タマネギを作っていたが、彰一さんの就農後は、農協の勧めもあり、当時すでに地域の特産になっていた水耕ミツバを新たに導入し経営の中心に据えて、現在の品目構成を確立した。

府内の意欲ある農業経営者の集まりである大阪府農業経営者会議（事務局：大阪府農業会議）にも父のあとを継いで加入し、特に当時同会議が推進していたパソコンを活用した経営簿記や農作業管理等については熱心に勉強して、早い時期から自らの経営に取り入れた。

これまで地域の実行組合等の役員を歴任するほか、地元警察の要請を受けて、少年達の健全育成や更生支援活動の一環として農業体験（田植・かかし立て・収穫作業等）を自らの水田で実施し、収穫された米を近隣の高齢者施設に寄贈するなどの地域活動にも熱心に取組んできた。

現在、彰一さんには心待ちにしていることがある。それは、再来年あたり、息子の達郎さん（30）が今の仕事を退職して戻ってくる予定であること。達郎さんは学校卒業後、農業を手伝っていた時期があり、その時に地元の4Hクラブに入会し、サラリーマンの現在も、将来の就農を意識して、会員として地元の若手農業者との交流は続いているそうだ。

彰一さんが思い描く夢の実現まで、もうあとしばらくだ。（光崎）

「これからは息子がやりたい農業を応援したい」と話す北野彰一さん